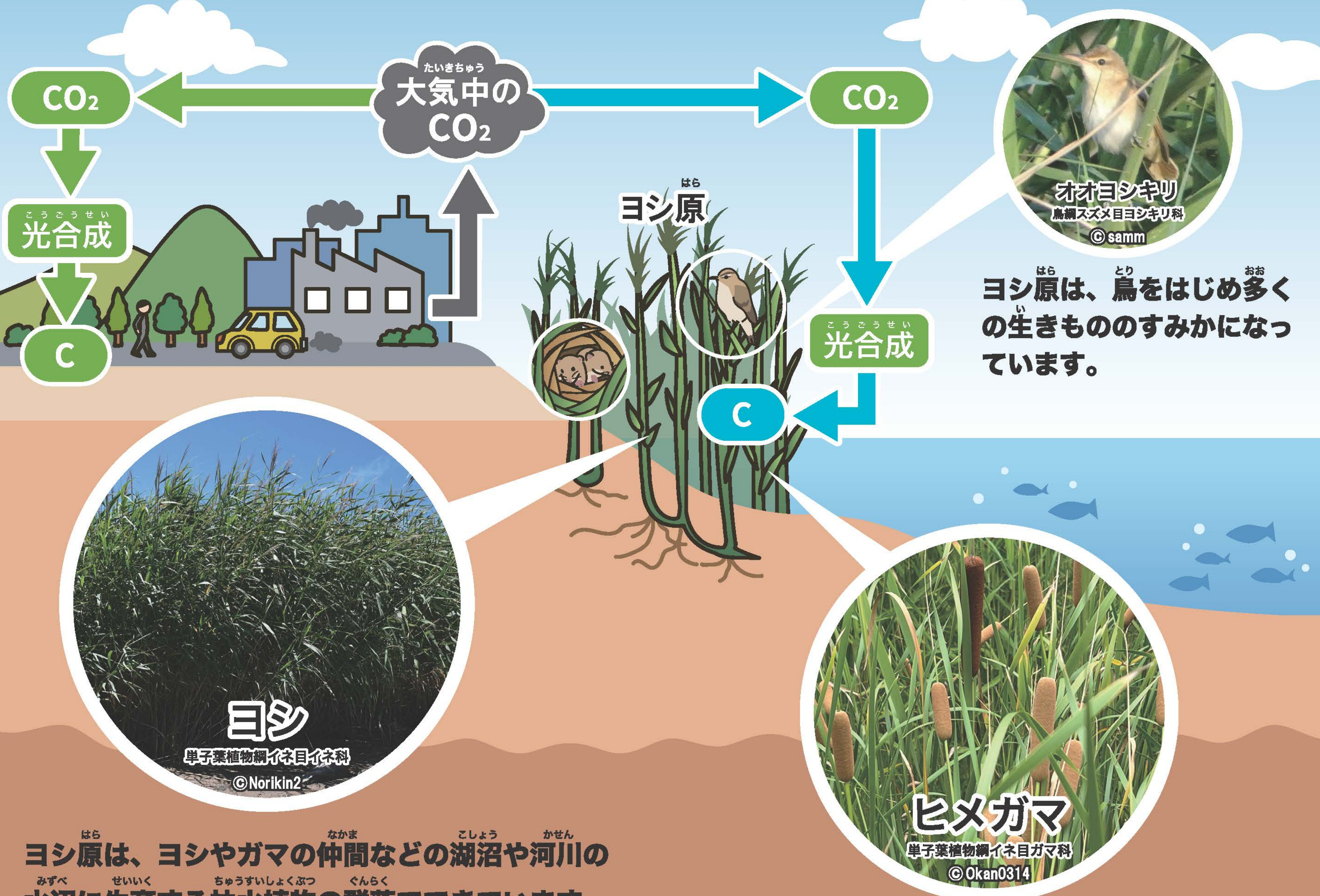


# ブルーカーボンで注目のヨシ原

干潟などの海藻や植物プランクトンが光合成などで二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) から炭素 (C) を取り込み、  
 利用する過程で水中の生態系に蓄積される炭素を「ブルーカーボン」といい、  
 地球温暖化の対策として注目されています。



ヨシ原は、ヨシやガマの仲間などの湖沼や河川の水辺に生育する抽水植物の群落でできています。生きもののすみかになるだけでなく、水をきれいにすることはたらしめます。

ヨシ原を構成する植物も、二酸化炭素の吸収源となり、地球温暖化対策で重要な役割を担っています。

イラスト出典：株式会社バイオーム

大阪市では、令和3年(2021年)3月に、「大阪市生物多様性戦略」を策定し、生物多様性の保全に向けた取組みを進めています。



大阪市生物多様性ロゴマーク



大阪市生物多様性戦略

大阪市では、令和4年(2022年)10月に「大阪市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)(改定計画)」を策定し、地球温暖化対策の取組みを進めています。



大阪市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)



大阪市脱炭素キャラクター「ナーナ」